

2018年

「心の扉を開いたら」

琉球新報

2018年 1月20日	泣いても良い、前に進む	山入端 米子
2018年 2月17日	つらさを楽しみに変えて	上江洲 勇
3月24日	諦めず、前を向く	上江洲 勇
4月21日	専門医とリハビリで改善	金城 直子
5月19日	みんな大切な命	上門 敦子
6月16日	只談言える生活に感謝	崎濱 敏子
7月21日	会の交流、日々の励み	古屋 敦公代
8月18日	忙しさが活力をつくる	比嘉 嘉和子
9月15日	会の仲間、生涯の友に	嘉呼 田さく
10月20日	一つの出会いで変わった	東 恩納 博子
11月17日	我が身と思えぬ不思議体験	又吉 忠常
12月15日	病の事との引越	松藤 純

# 心の扉を開いたら

患者会・福祉団体便り

私はヤンバラードである。自称やんばるママムでもある。そう言う少しは身ぎれいに感じる。実際は、腰は直角にひねり曲がり、5歳歩くのにも虫が進む様である。顔も右が左より大きい。何ともおかしい顔になった。

身体の震え(振戦)が始まった。身体がガタガタしていきなさい。あなたに構っている暇はないよ」と心の中でつぶやく。それでも毎日は楽しい。希望に燃えている。第一に花壇の手入れである。大きなタリア、10種類のハイビスカス。個人で頼んでいるヘルパーさんと種をまいたり、さし芽をしたりと多忙である。

それからハーモニカ。下手くそながら友人を呼んで楽しむ。毎日必ず誰かが自宅を訪れる。その時は「助けて」と言っただけでは難しいことを手助けしてもらい、その後お茶にする。友人たちのセルフサービスである。皆が私の所に寄ってくれるので、満ち足りた日々を送っている。次はパーキンソン友の会北部ブロックのメンバーで1泊旅行を計画したい。ハワイ旅行も

全国パーキンソン病友の会・県支部 山入端 米子

## 泣いても良い、前に進もう

いいなあと思う。今年も名護市真喜屋の祭りが、アシヤギ森で行われた。兄弟たちが車と車いすで私を森まで連れて行き、独特の綱引きを見ることができた。綱引きの前に行く若按司と大按司の見合わせは、それぞれ4人でお立ち台を担ぎ、その上に着飾った武者が立ち「ハーライヤ」と皆で綱を進める度に力を少し振るのである。いつまでも続いてほしい伝統行事である。

私にはやりたいことが山ほどあり、パーキンソン病も友達である。本に書かれている症状のほとんどがあてはまる。1時間半〜2時間ごとに薬を飲むと、少しは良くなる。症状に合わせて生活を楽しんでいる。最近、針を使ったりリカちゃん人形の服を縫っている途中だが、指の震えが止まらない。私の薬を運んだり着替えを手伝ったりしてくれる孫のためにも、完成を夢見て頑張っている。私にはまだ使える機能がたくさんある。時には泣いても良いから前に進もう。きっと良い人生だったと思うから。

2018年(平成30年) 1月20日(土)

全国パーキンソン病友の会・沖縄県支部 連絡先 ☎ 090(8294)1974 (又吉)

通信欄

# 心の扉を開いたら

患者会・福祉団体便り

パーキンソン病と診断され、治療を始めて4年がたちます。今思えば、症状は14、15年前から出ていたように感じます。日課としていた腕立て伏せ、屈伸、逆立ち。逆立ちをする時左手がガクンとなる時があり、メニューから外しました。当時は東京でタクシー運転手でした。電車の吊革を握っている手の力が急に抜けたり、スーパードの買い物中に足が止まったり…。なぜ立ち止まっているんだろと妙な感覚に陥ることもありました。左大腿筋のつり、痺れなどがあり、整形外科を受診しリハビリに励みました。決定的だったのは、タクシートの運転をしていた時です。夜になったのかと錯覚するほど、目の前が急に暗くなりました。危険を感じ、すぐに会社に戻って辞職。10カ月間で急激に悪化し、自力では立ち上がるのも困難な状態になりました。ここで死ぬわけにはいかないと思い、沖繩に帰ってきました。帰る時、「メネシット」を持たされました。これがパーキンソン病の薬とは知りませんでした。主治医と相談して飲むかを決

## つらさを楽しみに変えて

めるよう促されました。沖繩で当初受診していた病院では、パーキンソン病症候群と診断されました。病院を変え、きちんとした検査を受けた結果、パーキンソン病とばかり確定しました。薬に頼るだけではためなのではと思ひ、筋力を高める実践をしています。朝目覚めると、ベッドの上でストレッチを始め、筋力体操を1時間半ほど行います。後悔したくないと、自分を戒めながらやっています。散歩を習慣化し、時間があればひたすら関節をゆるめる運動をしています。友の会の又吉支部長夫妻には、私が散歩と称しているのは、ハードな筋トレだとビックリされました。パーキンソン病は身体も心も大変な病気だと思ひます。ものすごくつらく、苦さが続く日があります。ただただ楽しくしようとして生活している自分があります。

### 通信欄 医療講演会を開催

3月11日(日)に、県立博物館・美術館講堂で医療講演会を開催。正午から受付開始、開演は午後1時半。入場無料。座長はコザクリニック院長の川平稔先生。講師はみどり野リハビリテーション病院パーキンソン病治療センター長高橋裕秀先生。連絡先 ☎090 (1943) 7674 (又吉)。

全国パーキンソン病友の会県支部 上江洲 勇

# 心の扉を開いたら

患者会・福祉団体便り

私はこれまで同じパーキンソン病の方と触れ合う機会がありませんでした。この「心の扉を開いたら」の記事を読み、又吉さんと連絡を取るようになりました。その中で支部長であるご主人のことなどをうかがうと、これまでの私が経験してきたことなどが重なりました。リハビリを重視した生活を続けているので現状維持ができていると聞いて、自分のやり方は間違いはなかったんだとあらためて筋力の貯金をしていく生活を続けています。

初めて事務所に顔を出してみました。仲間たちがおしゃべりをし、時折笑いながら講演会の案内状の封入作業を進めていました。自主的に集まっていたらしゃるとのこと。自分のことだけでも大変なのに、仲間のために頑張っている姿に胸を打たれました。病気への不安を一人で抱えて過ごしてきた私にとって、又吉夫妻との会話は身体の中が温かいもので満たされます。時折事務所に顔を出しています。相談者が見えることが多く、一緒に話に加わることもあります。又吉事務局長

平成30年(3月31日) (土)  
2018年 24

## 諦めず、前を向く

が、同じピア同士分りあえることがあると話します。集まる仲間たちのおののおのの違つて、対処方法はとても参考になります。

本やインターネットからは得ることができないこともあります。私の今の症状はハネムーン期を過ぎた頃だそうです。思わずその言葉に吹き出してしまいました。そうか、薬も一緒か、慣れてくるとそういつたことも起きてくるのかと一人合点しています。事務所には全国各地からの会報誌が届きます。その中から、その人にあつた記事を見つけて渡してくれます。

先日、友の会主催の医療講演会が開催されました。先生のお話の中で、音楽に合わせながらエクササイズ(あえてリハビリと言わない)を楽しんでいる動画を見せてもらつて、そうだ、何事も楽しみながらですね。そして演題にもありましたように「あきらめないパーキンソン病治療を目指して」。決して自分も諦めることなく、前を向いていこうと心に誓つた日でもあります。

全国パーキンソン病友の会 連絡先 09 0(8294)1974 (又吉) 相談会も受け付けております。

通信欄

# 心の扉を開いたら

患者会・福祉団体便り

主人にパーキンソン病の症状が出始めたのは62歳の頃。病院受診になかなか結びつかず、やきもきする日々でした。65歳の誕生日の翌日、思い切つて豊見城市内の病院に行きました。そこでパーキンソン病と診断され治療が始まりました。整形外科でリハビリを続けていましたが、一向に改善せず段々と動きが悪くなるばかり。夜中のトイレも自分で起き上がることができず、手を貸さないといけない状況でした。調子が悪い時には車いすを利用しながらの生活でした。

ちょうどその頃「パーキンソン病友の会沖縄県支部」の存在を知りました。わらにもすがる思いで連絡を取りました。又吉忠常支部長とお会いし、本当にびっくりしました。パーキンソン病になつて25年を過ぎても自分の足で歩き、車の運転もなせるものごと。病が判明してから2年ほどは、週に5〜6日はリハビリに通われたそうです。今は自分でできるリハビリ、早足で2キロくらい歩き、自転車で筋力アップを図ることなどを続けておられるとのことだ。

## 全国パーキンソン病友の会県支部 金城 直子

### 2018年(平成30年) 4月21日(土) 専門医とリハビリで改善

した。身体を触ってみて、またまたびっくり。全身筋肉モリモリです。パーキンソン病は薬とリハビリが必要との話に、「やっっているわよ」と思いつつやるクリニックを教えたいいただきました。

住んでいる糸満市から沖縄市のコザクリニックまでは遠い上に高速も怖く、躊躇しました。ですが、難病リハビリを受けるため変えてみることにしました。今は週3回通院しています。当初はこのまま病気が進行し、やがて寝たきりになるものだと思っていました。専門医とリハビリでここまで改善するとは想像もできませんでした。薬の調整もうまくいき、前屈姿勢も良くなり自分の足でしっかりと歩きます。夜中のトイレも起こされなくなりました。表情も明るくなって主人に笑顔が戻り、リハビリを頑張れば良くなるんだと実感しています。

コザクリニックの川平稔先生はじめ、理学療法士の皆さん、又吉支部長夫妻、そこで集まる仲間たちとの温かい交流に励まされ、希望が持て、前向きに頑張ろうと思つていきます。人とのつながりを大事に、これからも夫婦で協力して頑張っていきたいと思えます。皆さまに感謝。ありがとうございました。

# 心の扉を 開いた

患者会・福祉団体便り

「私には、パーキンソン病の祖父がいます。祖父は、足を引きずりながら歩いたり、すくみ足で足を踏んだりして、も一歩が出せないで、しばらく固まったままだったりします。祖父を見たら愛だと思っ人もいるかもしれませんが、それは症状なのです」。パーキンソン病友の会支部長の又吉忠常さんの孫娘さんが中学生の時に書いた作文です。さらに続きます。

「ある日、卓球が終わって一緒にファーストフード店に入った時のことです。友の会の仲間が手を震わせながら注文をしていると、店員さんが注文を受けながら、その人をじろじろ見ていました。私はとても嫌な気持ちになりました。なぜなら、障害がない人は、じろじろ見ないからです。それを機会に、障害について深く考えるようになった。世の中には、いろいろな障害を持った方がいます。例えば、事故で手が不自由になりながらも足でピアノを弾く人。生まれつき手がなくて、義手でバイオリンを弾けるようになった人。その方々の努力と家族の協力や支えで、障害を乗り越えることができた

## みんな大切な命

話を聞きます。人と少し変わっているからと差別の心を持たないでほしいです。みんながいろいろな障害について理解し『共生社会』になることを期待したいと思います。」

作文はまだ続きますが、紙面の都合で割愛します。高校生活最後の今年1月、彼女は友の会新年会に、友人とボランティアで参加。自分で考えながら働く姿に、人と人とのつながりを通して成長していると感じました。現在、看護師を目指して勉強中とのこと。祖父との経験から人の気持ちの分かる優しい女性になっています。彼女なら患者に寄り添える看護師になれると思います。私は、去年3月まで小学校で特別支援教育に携わっていました。みんな大切な命。自分を大切にして友達も大切に。自分を認め、友達的事も理解しようとする。「みんなちがってみんないい」と話してきました。友の会に関わって、改めてその大切さを感じています。

**通信欄**  
「パーキンソン病薬とリハビリ」  
講師 長崎北病院 日時 佐藤院長  
6月9日(土) 受付 午後0時半  
開演 午後1時半から 場所 那覇市の県総合福祉センター  
ゆいホール 講演会終了後、座談会も予定。連絡先 090(8294)1974 (又吉)。

# 心の扉を開いたら

患者会・福祉団体便り

77歳のころ、私はパーキンソン病と診断されました。保健婦としての仕事の経験から予防医学の大切さを知り、現役引退後は健康管理に人一倍の注意を払っていましたので、まさか自分に病気が降りかかってくるとは思ってもみませんでした。夫と楽しい生活を送るつもりだっただけに、病気を受け入れるのには時間がかかりました。

当初は指先の震え程度の症状で、鍼灸などを中心とした東洋医学の治療で対応していました。しかし、改善はあまり見られず、5年が過ぎた頃からはいろいろな症状に悩まされるようになりました。

上半身はタオルで拭いても止まらない大量の汗、冷蔵庫から取り出した野菜のように冷え切った下半身、全身のこわばりなど、自律神経の異常がいたる所に出てきました。体温調整がうまくできず、熱中症で入院を余儀なくされたこともありました。

ドーパミンの薬物治療に変えてからしばらくは改善が見られました。快適な生活が送れるかもしれないと思えたのもつかの間、姿勢を保てない身体の硬直が再び起きまし

## 全国パーキンソン病友の会県支部 崎濱 敏子

2018年(平成30年)

6月16日 土曜日

### 冗談言える生活に感謝

王亮

王亮 森斤

車段

た。娘には県内外の病院に連れて行ってもらい、専門医にも診ていただきましたが、現在の薬物療法の限界を感じずにはいられませんでした。

「一歩前進してはまた戻る」を繰り返す体調の中で、主治医の稲福徹也先生は、私の抱える悩みに、耳を傾けてくださいました。現在の33歳ですので、生活の質という観点から病気の進行と、ともに起きる高齢化の不具合も悩ましい問題です。先生は、日々の体調や食事内容、睡眠のパターンなど、些細な変化にも改良につながるアドバイスをしてくださいました。高齢者のパーキンソン病の治療に忘れてはならないのはリハビリです。訪問看護師らプロの方々のサポートを受け、続けることで私の体調は保たれています。周りの多くの人たちにもリハビリの良さを分かってもらえるようになったようです。

病の診断から16年。現役時代には想像もしなかった闘病生活を送っていますが、決して悲観的なものだけではありません。薬物療法とリハビリを受けることで、一定の活動範囲は維持できています。カラオケボックスで「バラが咲いた」も歌えます。「二足で歩くことはできませんが、娘たちとドッジボールもできます。冗談を言いながらそうしたことのできることに感謝です。

# 心の扉を開いたら

患者会・福祉団体便り

私の母・崎濱敏子は、病気になるまで朝起きると柔軟体操をしてから体に良い朝食を準備するという健康オタクでした。何事も筋を通さないと気が済まない性格で、自分が納得しないものは決して妥協しません。「老いたからといって絶対に子どもに従わない」とよく言っていました。パーキンソン病を発症した時のショックは大きかったと思いますが、子どもにはそのような素振りは見せませんでした。母の気丈な態度に、年長いた両親の二人暮らしでも大丈夫だと思っていました。そんな母が熱中症で入院した時、母の発する言葉と身体状況にギャップがあると初めて気が付きました。両親の生活をこのようにしたらいいかと思っていたところ、姉が書類手続きから役所などの交渉まで根気よくしてくれました。訪問看護師らプロのサポートを受けられるようになり、今の生活があります。病気は母の生活を大きく変えました。悪いことばかりではありません。発症後、迷惑を掛けると人前に入るのを拒んでましたが、病気で落ち込んでいた親戚の方に対して

## 会の交流、日々の励みに

は、懸命に歩き、寄り添って「自分も頑張っているから頑張ろうね」と励ましています。わが母ながらすごいと感じたものです。おしゃれ好きな母は、月に一度の友の会交流会の前日は少女のようです。服やカバンを決めて、当日のスケジュールを確認して、と準備にいそしみます。会での情報交換だけでなくレクなども楽しんでいきます。

いつも楽しみにしている交流会が、役員の欠員やボランティア不足で毎月開催できなくなるとの連絡を受けました。事務局長は「どうにかして毎月開きたい」と思い悩んだようです。私自身も仕事があり、なかなか協力が難しい状況です。とても心苦しく、残念に思っています。同じ病で悩んでいる者同士が交流すること、いろいろな情報を得て日々の生活の励みにもなっています。友の会の継続を願います。

若い頃に戦争を体験し、戦後は医療従事者として多くの命を助けながら子ども4人を育ててくれた母。生きる楽しみを常に求め、多くの趣味に挑戦し、知識として生かしてきました。今は体がうまく動かないので、以前ほど趣味を楽しむことは難しいですが、友の会での交流は母のチャレンジ精神を再び起爆剤になっています。今後も陰ながら友の会を応援しています。

五九

五求

全国パーキンソン病友の会県支部 古屋敷 公代

森戸

七九

2018年(平成30年)

7月21日

土曜日



# 心の扉を開いたら

患者会・福祉団体便り

2025年には高齢者の5人に1人が認知症になると推計されるとの記事が目につくようになりました。パーキンソン病は高齢になるほど発病率が上がります。近年、日本におけるパーキンソン病の患者数は、高齢化社会に伴い増加傾向にあります。現在はおよそ15万〜20万人と推定されています。医療の進歩で、症状が軽い段階で早期診断ができるようになっていきます。

5年前に77歳で他界した主人は、パーキンソン症候群レビー小体型認知症と診断され、約10年間の闘病生活を送りました。先が見えず、計画は立てられず、変化がある時はその時点で対応して前向きに日々を過ごしていました。

主人の介護で忙しくしていた2010年、私は体の変調を感じました。検査を受けた結果、胃がんと診断が出ました。手術を受け、1年間の抗がん剤治療をしました。腫瘍マーカーの数値に一喜一憂しながら、7年が経過。何事もなかったような顔をして、今現在元気な私がおられます。友の会に参加するようになったのは10年ほど前から。主

王求 全国パーキンソン病友の会県支部 比嘉 嘉和子 王求

王求

王求

王求

## 忙しさが活力をつくる

人は体調が思わしくなくとも多く、あまり会に来られませんが、事務所開きやバスツアーには参加しました。私は1人でも交流会に足を運ぶようにしました。主人が天国に旅立った後、会の役員として微力ながら活動に参加しております。

今、介護をしていらっしゃる方や、患者さんからいろいろな相談を受けます。無我夢中で過ごした介護生活を思い出しながら、思いを共有しています。介護をしていらっしゃる方には「ご自分の健康にも気を配りながら過ごしてね」と声を掛けております。

主人が難病になったのは悲しい出来事でしたが、会の患者やご家族との交流に恵まれて過ごしています。きっと主人が見守ってくれているんだなと感謝しております。

私には心に秘めて大事にしている言葉があります。「散ることを恐れて咲かない花はない」。いつまでも元気で時節到来に備えたい。やりたいことは何でもチャレンジする。忙しさが活力をつくるのです。

2018年(平成30年)

8月18日 土曜日

全国パーキンソン病友の会沖縄県支部  
**通信欄**  
 交流会のお知らせ 8月26日(日) 午後0時半受付 場所・那覇市保健所3階大会議室  
 連絡先 ☎090(8294)1974 (又吉)

# 心の扉を開いたら

患者会・福祉団体便り

40代でリウマチを、50代で狭心症を発症しました。70歳でパーキンソン病と診断され8年目になります。診断後に知ったことですが、嗅覚がなくなった頃からパーキンソン病を発症していることが多いそうです。私は60代で嗅覚がなくなってきました。当時は那覇市安謝で仕事をしていました。自宅がある浦添市城間から約5キロを週に2回ほど歩いて通っていました。だんだんと徒歩通勤が厳しくなり、立つのも難しくなってきました。不眠に悩まされ心療内科へ、そこで神経内科へ行くように言われパーキンソン病と診断がつかしました。これまでの私は、4人の子を育てながらずっと働き詰めでした。三つの仕事を掛け持ちしていた時期もあり、相当無理をしていたように思います。病気を患ってから子どもたちが仕事から疲れて帰って来るのを見ると、「私が応援しないと」と思い、主人の協力を得ながら孫を含め9人分の夕食を用意しました。

今年の5月ごろから、めまいや吐き気、不眠、食べられない状態に。薬も吐き、身体が動かず、寝たきりで車いすでの

## 会の仲間、生涯の友に

2018年(平成30年) 9月15日 土曜日

移動となっていきました。検査でも原因ははっきりしませんが、インテラして家族に当たり散らしてしまいました。

このままでは家庭も壊れると、精神科に入院できるよう紹介状を書いてもらいたいと、主治医のコザクリニツクの川平稔先生にお願いしました。先生は「リハビリを頑張ろう」と車いすに乗った私の膝をポンポンと叩いてくださいました。その時「もう一度頑張ろう」とやる気が湧いてきました。主治医の言葉一つで患者の心は変わります。看護師の娘2人も、あれこれと手を尽くしてくれました。

私の場合、病気の進行と加齢で身体のバランスを崩し、気持ちを追いつかなくなったのだと思います。10年近く減った体重も薬の調整をしながら、少しずつ元に戻りつつあります。

友の会に入ってから、生涯の友と考える仲間ができました。大きな財産です。同じ病の仲間と話す、心が癒やされます。会の講演会などで受付をすることがあります。その際に皆さまのお話を聞かなくていい、涙することもありますが、共通の悩みを抱えた同士として私の話を聞いてもらいます。仲間感謝、家族にも感謝の気持ちでいっぱいです。一日一日を大事に過ごしていきたいと思えます。

# 心の扉を開いたら

患者会・福祉団体便り

## 全国パーキンソン病友の会県支部 東恩納 博子

たった二つの出会いがきっかけとなり、気持ちを大きく変化させてくれることがあります。10年前、ウォーキング中に交通事故に遭いました。整形外科に通いましたが良くなり、つえをついて歩いていましたが、転ぶことも多くなりました。先生からの紹介があり、近くの神経内科を受診。そこでパーキンソン病と診断されました。6年前のことです。健康に過してきたので、びっくりしました。

50代後半から那覇市内で「お食事処」を経営しています。病のせいで身体の動きが悪くなり、会話もしづらくなり、思いをしておりました。そんな時、パーキンソン病友の会沖縄県支部を知り、定例会に出席しました。そこで又吉忠常支部長夫妻と出会い、私の気持ちが一变しました。お二人の姿が、諦めかけていた気持ちを奮い立たせてくれました。この出会いは大切な大切な私の財産です。

80代の大台に乗った現在もお店を続けています。現在の症状は身体が動きづらく、よだれ、しゃべりにくさもあります。朝は特に身体の硬直が

### 一つの出会いで変わった

ひびく、口も動かしづらくなります。リハビリがてらに店に出てコーヒーを作ります。お客さまとおしゃべりをしていると、病気を忘れて楽しく過ごせます。

字も書きづらくなっていますが、指の運動のため絵手紙を描いたり、編み物も始めたりしました。指先の硬さも少しずつ取れ、なんとか字が書けるようになっていきます。「自分でできることは自分でやる」をモットーにしています。洗濯物を干すのにも時間がかかりました。夜は湯船につき身体をほぐします。風呂場の掃除は一日ではできませんので、今日はここまでと決めてやっています。

現在、コザクリニックにデイケアに通っています。介護スタッフの皆さんが、同じ目線で接してくださる姿に感激して感謝しております。病気になる、今更ながら人の優しさや思いやりに涙して、感謝して毎日を過しています。「人事を尽くして天命を待つ」という心境です。

2018年(平成30年)  
10月20日(土)  
R.S  
来月18日に交流会

11月18日(日)、那覇市総合福祉センターゆいホールで交流会を開きます。受け付けは午後0時半から。連絡先 ☎090(8294)1974(又吉)。



# 心の扉を開いた

患者会・福祉団体便り

つい先日10月の日に不思議な体験をしました。事務所で仕事をしていた時のことです。夕方6時過ぎ、事務所にいた会の役員2人が帰られました。その後の記憶、意識がないのです。今でも思い出せようとしても思い出せません。妻の話により「突然眠り、呼び掛けたら返事はするものの、「ハワイに来ていたんだ」など意味不明な言葉を発していたそうです。

午後7時ごろ、会員家族の上原敦子さんが事務所に来られたようですが、覚えていません。上原さんの差し入れの天ぷらも食べたそうですが、記憶になし。妻と上原さんは「様子がおかしい。脳梗塞では」と心配したそうです。たまたま息子から電話があり、状況を説明。私の身を案じ、救急病院へ連れていったそうです。病院では血液検査、CT検査もしたそうですが異常なし。院内では自分で車いすをこぎ、笑いながら「車いす暴走族だ」と走り回っていたそうです。自分の身に何が起こったんだろうか！ いまだに信じられない思いです。

翌日、妻が主治医の先生に電話したところ「パーキンソン病のせん妄ではないかと思

## 我が身と思えぬ不思議体験

われます」との回答。「2週間ほど様子を見て、またそういうことが起きているようでしたら、薬の調整が必要になりますから、来院してください」と説明を受けたそうです。

自分のことと思えず、せん妄について調べてみました。せん妄とは、意識障害が起き、混乱した状態のことです。場所や時間が分からなくなったり、つじつまの合わない言動、興奮といった精神症状が出たりするそうです。パーキンソン病の場合は、脱水や薬の影響のほか、疾患そのものの症状の一つでもあるようです。妻も息子から聞いたあの日の私の様子は、調べた内容と当てはまります。認知症と間違われることもあるようですが、せん妄イコール認知症ではないようです。パーキンソン病でこうしたことが起るのかと、不思議な気持ちです。病院に行ったらどこを覚えていないのですから。いろいろな症状が全身に及んでくる病気なんだと、つくづく怖くもなります。でも、諦めず、負けず、頑張っていきます。

パーキンソン病友の会沖縄県支部  
交流会のお知らせ  
日時 18日(日)  
受付午後0時半 場所  
沖縄県総合福祉センター  
ゆいホール 連絡先 ☎090  
(8294)1974 (又吉)。

通信欄

# 心の扉を



## 開いたら

患者会・福祉団体便り

ことし5月、パーキンソン病を患う妻と2人で石垣島から福岡県大牟田市へ引っ越しました。というのも、2年前に健康診断で異常が見つかり、大腸カメラ検査を受けたところ腫瘍が見つかりました。検査の結果は悪性でしたが、主治医の先生には「全て取り除き、問題ない」と言われました。今回は良かったのですが、全く思いもよらなかったことだけに、今後のことを考えさせられました。

パーキンソン病歴が30年近い妻の由都子は、要介護4の認定ですが、全介助が必要です。1人ではご飯を食べることとできませんし、顔を洗うこともできません。私にもしものことがあったら、妻はどうなるのでしょうか。調理師の仕事しながら妻の介護をしてきたのですが、私自身1、2年ほど前から少しずつ足の調子が悪くなってきていました。そんな中での今回の件。

私たち夫婦には娘が3人おり、そのうち2人が福岡県と熊本県に住んでいます。いずれは子どもたちの近くに引っ越しを、思っていました。

## 病の妻との引っ越し

2018年(平成30)

12月15日(土) R.S

私共が妻の介護などの面倒をみるのができなくなった際には、施設に入所するしかありません。子どもたちは本土にいますし、それぞれ家庭もあります。近くに住めば娘たちが年に1、2度施設を訪ねてくれるようになればいいかなと思っていました。

そこで子どもたちに相談したところ、「それなら年齢も年齢だし、そのうち仕事もできなくなるのだから今のうちに本土に引っ越したら?」そうすれば会いに行きやすいし」と勧められ、引っ越しを決めました。

荷造りは本当に大変でした。石垣島に住んでいる妻の妹やおいっ子たちに手伝いに来てもらい、部屋の掃除や不要品の処分などをしました。意外と不要品が多く、思い切った家具などを処分しました。処分場に何度も通いました。引っ越し後もまた別の苦労がありました。引っ越し先での制度の違い、それまで受けていた障害者手帳や特定難病指定疾患の手続きなど、新たに申請が必要なものや切り替えて役所に通いました。同時に、荷物の片付けや自治会への参加といった近所付き合いもありました。ごみ出しの一つをとっても、それまでの分別の仕方と違うので戸惑いもありました。毎日こまめにしています。来月に続きます。